

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：事業数				指標の求め方：事業数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：事業参加延人数				指標の求め方：事業数×1事業当たり30人									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/数)	計画値 7	実績値 5	7	6	5	7	4	7	7	7	7	7	7	
		成果指標 1 (単位/人)	計画値 120	実績値 16	120	114	120	52	120	120	120	120	120	120		
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった事業があるが、開催した事業の参加者からは概ね好評だった。	自己分析： 概ねコロナ前の参加者数で推移しているが、協力隊が講師を務める事業については、好評のためほぼ倍増している。	自己分析： 出前講座ノルディックウォーキングと歩くスキー教室については、概ね計画通りの成果となった。出前講座については、要望に沿った事業を実施することができた。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、事業数・参加者数ともに計画値をほぼ達成できしており、参加者数が増加している事業もあることから「良好である」と判断した。	自己分析： ノルディックウォーキング教室と歩くスキー教室については、活動指標及び成果指標ともに概ね計画通りの実績を残すことができたと評価できる。一方で出前講座については、開催の求めがあるかどうか各指標に大きく影響するものであり、今回、各指標の計画値に及ばなかった要因でもある。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 一定程度目的は達成されているが、事業によっては参加者が固定されているものもあることから、地域おこし協力隊のSNS等も利用しながら周知方法を見直すなどして「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：事業延回数				指標の求め方：種目数（4種目）×開催回数（10回）									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：参加延人数				指標の求め方：参加延人数									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 （3年度）	第2年次 （4年度）	第3年次 （5年度）	実施3カ年 合計	第4年次 （6年度）	第5年次 （7年度）	第6年次 （8年度）	実施3カ年 合計	第7年次 （9年度）	第8年次 （10年度）	第9年次 （11年度）	第10年次 （12年度）	実施4カ年 合計	
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 （単位/回）	計画値 40	40	40		40	40	40		40	40	40	40		
			実績値 63	61	59		63									
		成果指標 1 （単位/人）	計画値 1,100	1,100	1,100		1,100	1,100	1,100		1,100	1,100	1,100	1,100		
			実績値 1,707	1,300	1,449		1,304									
	評価 内容	事業の達成度 （活動指標をもとに評価）				達成されている										
		事業の成果 （成果指標をもとに評価）				上がっている										
		事業の効率性 （事業費に対する成果）				上がっている										
		総合評価				良好である										
			自己分析： コロナウィルス 感染症対策を行 いながら、例年 通り実施が出来 た。また、参加 延べ人数が前年 より大幅に減少 した。	自己分析： 事業回数及び参 加人数は計画値 を上回ったが、 参加人数が前年 より大幅に減少 した。	自己分析： 指標上は各実績 値がいずれも計 画値を上回って いることから、 各事業が当初の 計画通り適正に 実施されたと考 えている。	判断理由： 事業回数及び参 加人数ともに計 画値を超えて継 続されており、 一定の成果をあ げていることか ら「良好である 」と判断する。	自己分析： 各指標がいずれ も計画値を実績 値が上回る結果 となっており、 目的を達成して おり事業として 評価することが できる。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 （R5、R8、R10）		R5： スポーツ少年団員の知識や技術の向上はもとより、スポーツ活動の 推進につながるものであることから「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された 事業費の 推移	国費	計画額				0				0					0	
		予算計上額				0				0					0	
		実績額				0				0					0	
	道費	計画額				0				0					0	
		予算計上額				0				0					0	
		実績額				0				0					0	
	地方債	計画額				0				0					0	
		予算計上額				0				0					0	
		実績額				0				0					0	
	その他	計画額				0				0					0	
		予算計上額				0				0					0	
		実績額				0				0					0	
	一般財源	計画額	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	368,000	1,472,000	3,680,000
		予算計上額	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000		736,000					0	1,840,000
		実績額	350,400	345,600	337,200	1,033,200	321,400			321,400					0	1,354,600
	事業費合計	計画額	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	368,000	368,000	1,472,000	3,680,000
		予算計上額	368,000	368,000	368,000	1,104,000	368,000	368,000	0	736,000	0	0	0	0	0	1,840,000
		実績額	350,400	345,600	337,200	1,033,200	321,400	0	0	321,400	0	0	0	0	0	1,354,600
事業費予算の内容		体育協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円	体育協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円	体育協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円		スポーツ協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円	スポーツ協会補助金 183,000円 スポーツ少年団 育成補助金 185,000円									
前年度予算との比較 (増減理由)		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額									
実績との比較 (増減理由)		スポーツ少年団員の増加による増額	スポーツ少年団員の減少により減額	団員数の減少に伴う減		少年団の数の減(6→5)及び団員数の減によるもの										

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）															
指標名：スポーツ協会補助金、スポーツ少年団補助金															
成果指標 1（「成果」をもとに設定）															
指標の求め方：スポーツ協会補助金、スポーツ少年団補助金															
指標の求め方：スポーツ協会登録団体、スポーツ少年団登録人数															
			第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画				
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値 368,000	368,000	368,000		368,000	368,000	368,000		368,000	368,000	368,000	368,000	
		実績値	350,400	345,600	337,200		321,400								
		成果指標 1 (単位/団体、人)	計画値 24団体 228人	24団体 228人	24団体 228人		24団体 228人	24団体 228人	24団体 228人		24団体 228人	24団体 228人	24団体 228人	24団体 228人	
	評価内容	実績値	22団体 187人	22団体 143人	21団体 131人		21団体 121人								
		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている									
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない									
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない									
		総合評価				普通である									
			自己分析： 少年団の登録人数はここ数年ほぼ横ばいの状態であるが、地域に密着したスポーツ活動の推進に大きな役割を果たしているものと考ええる。	自己分析： 少年団の登録人数は前年に比べ減少したが、地域に密着したスポーツ活動の推進に大きな役割を果たしているものと考ええる。	自己分析： 過疎や競技人口の減少などの要因により協会加盟団体数や少年団員数が減少しているものと考えられる。	判断理由： 少子化の影響もあり、少年団の登録人数は減少傾向にあるが、補助金を交付することで少年団の運営維持に繋がっており、子ども達に様々なスポーツを経験する場として大きな役割を果たしていることから、「普通である」と判断する」。	自己分析： 主に過疎や競技人口の減少、指導者の高齢化などの要因が重なって団体数や団員数が減少しており、当支援がなければこの傾向に拍車がかかるものと考えられる。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
		今後の方向性				現状のまま継続									
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 地域に密着したスポーツ活動の推進に大きな役割を果たしているものと考ええることから、活動を支えるために継続した助成、連携が必要であることから「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：				

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	1,265,000	1,265,000	1,265,000	3,795,000	1,821,000	1,821,000	1,821,000	5,463,000	1,821,000	1,821,000	1,821,000	1,821,000	7,284,000	16,542,000
		予算計上額	1,265,000	1,221,000	1,821,000	4,307,000	1,821,000	1,821,000		3,642,000					0	7,949,000
		実績額	893,233	1,662,925	1,302,700	3,858,858	1,742,672			1,742,672					0	5,601,530
	事業費合計	計画額	1,265,000	1,265,000	1,265,000	3,795,000	1,821,000	1,821,000	1,821,000	5,463,000	1,821,000	1,821,000	1,821,000	1,821,000	7,284,000	16,542,000
		予算計上額	1,265,000	1,221,000	1,821,000	4,307,000	1,821,000	1,821,000	0	3,642,000	0	0	0	0	0	7,949,000
		実績額	893,233	1,662,925	1,302,700	3,858,858	1,742,672	0	0	1,742,672	0	0	0	0	0	5,601,530
	事業費予算の内容		地元開催大会助成及び全国・全道大会出場助成	地元開催大会助成及び全国・全道大会出場助成	地元開催大会助成及び全国・全道大会出場助成		地元開催大会助成及び全国・全道大会出場助成	地元開催大会助成及び全国・全道大会出場助成								
	前年度予算との比較 (増減理由)		最近の補助実績から算出	最近の補助実績から算出	最近の補助実績から算出		最近の補助実績から算出	前年同額								
実績との比較 (増減理由)		新型コロナウイルス感染症の影響で、中止となった大会が多かったため、助成が減少した。	全国大会及び国際大会に出場した個人・団体の増	全道大会等の出場件数（補助申請件数）の減		全道大会等の出場件数（補助申請件数）の減										

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：補助金申請件数				指標の求め方：補助金申請件数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：全道大会等出場者延人数				指標の求め方：全道大会等出場者延人数									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 50	実績値 13	50	50	50	17	50	50	50	50	50	50	50	
		成果指標 1 (単位/人)	計画値 50	実績値 59	50	50	50	95	50	50	50	50	50	50	50	
		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている										
	評価内容	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 競技レベルの高い全道・全国大会参加への支援により、競技力の向上やスポーツへの関心、参加意欲向上が図られている。	自己分析： 競技レベルの高い全道・全国大会参加への支援により、競技力の向上やスポーツへの関心、参加意欲向上が図られている。	自己分析： 年度ごとに指標の実績値に増減があるものの、全道大会や全国大会並びに国際大会への出場者に対し経費面での支援を行うことで、スポーツ活動を奨励することができおり行政の役割を果たすことができている。	判断理由： 補助金申請件数は計画値を下回っているが、中には全国大会での上位入賞や国際大会の出場者も出るなど、補助金を交付することで競技者の負担軽減を図り、競技力の向上に繋がっていることから「良好である」とする。	自己分析： 今年度は活動指標の実績値が計画値を下回ったものの、実績だけを見れば令和3年度以降で最も高い値を残すことができた。申請件数では前年比で8件の増となっており、スポーツの振興に寄与していると判断できる。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				拡大										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 市外の団体に所属する市民は補助の対象外となっているが、市外の団体に所属する市民が全道・全国大会へ出場していることや、市内にはないスポーツ団体での出場もあることから、市外団体に所属する市民も対象となるよう改善を図る必要があることから「拡大」とする。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：補助金支出額（円）				指標の求め方：補助金支出額（円）									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：参加チーム、参加者数				指標の求め方：146チーム×6人									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画				第 7 期 総 合 計 画 計	
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)		実施 4 力年 合 計
事業 評価	指 標	活動指標 1 （単位/円）	計画値 632,000	632,000	632,000		632,000	632,000	632,000		632,000	632,000	632,000	632,000		
		実績値	0	632,000	632,000		632,000									
	成果指標 1 （単位/チーム、人）	計画値	146チーム 876人	146チーム 876人	146チーム 876人		146チーム 876人	146チーム 876人	146チーム 876人		146チーム 876人	146チーム 876人	146チーム 876人	146チーム 876人		
		実績値	0	114チーム 634人	121チーム 661人		128・686									
	評 価 内 容	事業の達成度 （活動指標をもとに評価）					ほぼ達成されている									
		事業の成果 （成果指標をもとに評価）					変わらない									
		事業の効率性 （事業費に対する成果）					変わらない									
		総合評価					良好である									
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。	自己分析： 参加チーム数・人数ともに計画値を下回っているが、全道規模の大会として位置づけられている。また、全道から集まった中学生剣士の日頃の練習の成果を発揮するとともに、技の競い合いと心の鍛錬に効果があると思われる。	自己分析： 成果指標の実績値は計画値を下回っているものの、当日の会場の様子などから行事が活況であることを確認しており、技の競い合いとともに選手間の交流が図られるなど、総合的に判断し補助金が有効活用されていると判断できる。	判断理由： 毎年多くの参加者があり、中学生剣士の全道大会として定着していることから「良好である」とする。	自己分析： 成果指標の実績値が計画値を下回っているものの、年々実績値が上がっている状況である。達成度、成果、効率性のいずれを見ても評価に値する。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 （R5、R8、R10）		R5： 毎年多くの参加者があり、中学生剣士の全道大会として定着していることから「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：交付金支出額				指標の求め方：交付金支出額									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：参加人数				指標の求め方：参加人数									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合 合計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 567 実績値 297	567 378	567 351		567 486	567	567		567	567	567	567		
		成果指標 1 (単位/人)	計画値 1,400 実績値 530	1,400 592	1,400 724		1,400 763	1,400	1,400		1,400	1,400	1,400	1,400		
	評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				普通である										
			自己分析： 新型コロナウイルスの影響を受け、中止とした競技団体があつたため、例年に比べて参加者は減少しているが、市民のスポーツ活動奨励、健康増進に寄与している。	自己分析： 様々な競技で催しが実施されており、市民のスポーツ活動奨励、健康増進に寄与している。	自己分析： 競技人口が年々減少するなどして、大会開催が困難となる状況があり、そのことが指標に現れている。しかし、各競技種目ごとに様々な事情を抱えながらも大会開催とその運営にかかわる関係者がおり、官民が一体となり、協働でスポーツ活動を奨励するものである。	判断理由： 毎年恒例のスポーツ行事として定着し、各競技団体が主体となって大会等を開催している。様々な競技で実施されており、市民のスポーツ活動奨励、健康増進に寄与していることから「良好である」とする。	自己分析： 本年度は競技人口の減少に加え、活動そのものを休止する団体も出てきており、取り巻く環境が厳しいものとなっているが、各指標とも前年度を上回る実績を残すことができており、今後も同様の補助を継続して行っていく必要があると考えている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
			総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析													
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 毎年恒例のスポーツ行事として定着し、各競技団体が主体となって大会等を開催しており、市民のスポーツ活動奨励、健康増進に寄与していることから「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：開放日数				指標の求め方：開放日数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：利用人数（人）、1日当たりの利用人数（人）				指標の求め方：利用人数／開放日数									
				第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	
事業 評価	指 標	活動指標 1 (単位/日)	計画値	52	52	52		52	52	52		52	52	52	52		
		実績値	27	36	43		52										
	成果指標 1 (単位/人、人)	計画値	6,300人 121人	6,300人 121人	6,300人 121人		6,300人 121人	6,300人 121人	6,300人 121人		6,300人 121人	6,300人 121人	6,300人 121人	6,300人 121人			
		実績値	1,815人 67人	5,531人 153人	7,028人 163人		10,526・202										
	評 価 内 容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
		総合評価					良好である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 新型コロナウイルス感染症により、各種事業が中止となったことをはじめ、緊急事態宣言により艇庫の開放日も減少した。それに伴い、利用者も減少している。	自己分析： 悪天候により利用中止もあったが、新型コロナウイルス感染症発生前の利用者数に戻りつつある。	自己分析： 活動指標については、実績値が計画値に達していないものの、コロナ禍の影響を受けながらも3年度以降は利用者が回復傾向にあり、令和5年度は成果指標の実績値が計画値を上回った。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、学校による宿泊学習の際の体験学習としての利用が多いことから、新たなニーズへの対応として近年人気のあるサップを導入するなど、利用団体からは好評をいただいていることから「良好である」とする。	自己分析： 活動指標及び成果指標ともに令和3年度以降は順調に伸びている。特に成果指標は計画値を大幅に上回る実績を残すことができ、事業としては大きく評価できるものであった。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続											
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 利用者数は天候に作用されることが多く、年単位で評価することは難しいが、着実に市内外に艇庫の事業が浸透しつつあり、利用者からは好評をいただいていることから「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：						

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：事業数				指標の求め方：事業数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：事業延べ参加人数				指標の求め方：事業数1回×390人									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 1	実績値 0	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1		
		成果指標 1 (単位/人)	計画値 390	実績値 0	計画値 390	実績値 306	計画値 390	実績値 336	計画値 390	実績値	計画値 390	実績値	計画値 390	実績値		
		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されていない										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない										
	評価内容	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっていない										
		総合評価				普通である										
			自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。	自己分析： 令和元年度大会以来4年ぶりの開催となり、「参加者離れ」が心配される状況であったが、300人を超える参加者があったことはある程度の評価に値するものと考えている。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の発生以降、大会は中止となっており、判断することができないことから「普通である」とする。	自己分析： 成果指標の実績値が計画値には及ばないものの前年を上回っており、次年度以降の早いうちに感染症の影響を受ける前（令和元年度）の水準（389人）まで回復することを期待する。事業自体は、大きなトラブルや負傷者等が発生することもなく終了しており、交付金を有効活用できたと考えている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				手段の見直し										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： コース周辺は熊の出没が多く、ランナーの安全を確保しながら大会を開催することが難しくなっていることから、コース変更等も含めた検討が必要のため「手段の見直し」とする。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：事業延べ回数				指標の求め方：事業延べ回数															
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：利用者延べ人数（レクリエーション活動を通してトレーニングルームを利用するようになった者も含む）				指標の求め方：12回×４０人															
				第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計						
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計							
事業 務 事 業 評 価	指 標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	12	12	12		12	12	12		12	12	12	12								
			実績値	1	50	64		75															
	成果指標 1 (単位/人)	計画値	480	480	480		480	480	480		480	480	480	480									
		実績値	16	441	732		1,198																
	評 価 内 容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている																
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている																
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている																
		総合評価					良好である																
		総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する 自己分析		自己分析： 10月のトレーニングルーム開設準備や、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の影響もあり、事業回数や利用者は大きく下回ったが、参加者からは好評だった。	自己分析： 協力隊が「いきいきシニアプログラム」の講師を行うこととなり、事業回数の計画値を大幅に上回った。	自己分析： 活動指標については、引き続き地域おこし協力隊が「いきいきシニアプログラム」の講師を担当することに伴い計画値を上回っている。成果指標については、事業回数の増加に伴い実績値が計画値を上回っている。	判断理由： 協力隊がトレーニングルームの運動指導だけではなく、「いきいきシニアプログラム」の講師や独自事業として講座を行うことで、市民の健康増進に繋がっていることから「良好である」とする。	自己分析： 「いきいきシニアプログラム」の講師を担当していることや出張及び企画教室の増が活動指標の増の要因となっている。1年を通して企画教室を開催しているほか、トレーニングルームの利用者が順調に伸びていることが成果指標の実績値に現れている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：										
	今後の方向性						拡大																
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 現状の活動に加えて、様々なニーズに合わせた講座の実施や他部署と連携した健康増進を図るための取組みをさらに進めていくため「拡大」とする。				R8：				R10：											

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：事業数				指標の求め方：事業数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：事業延べ参加人数				指標の求め方：事業数1回×30人									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1	計画値 1	実績値 1		
		成果指標 1 (単位/人)	計画値 30	実績値 29	計画値 30	実績値 77	計画値 30	実績値 28	計画値 30	実績値	計画値 30	実績値	計画値 30	実績値		
		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
	評価内容	事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 東京オリンピック・パラリンピックで使用した床材を使用し、パラスポーツであるシッティングバレーとポッチャ競技の体験を行い、参加者からは好評だった。	自己分析： 昨年に引き続きポッチャ競技の体験を行い、障がい者の方も含めた老若男女で交流ができ、参加者からは好評だった。	自己分析： 元バスケットボール日本代表で東京2020オリンピック銀メダリスト 三好南穂氏を講師としてバスケットボールクリニック（教室）を開催し、実技指導や、質疑応答、サイン会や記念撮影を行った。参加者による肯定的な意見が多数あり、事業として評価できるものであった。	判断理由： 親子わいわいすぽーつらんどやパラスポーツ体験を開催し、老若男女や障がい者の方でも運動に触れることができる環境を作ることができていることから「良好である」とする。	自己分析： 教室（種目）の選定に当たり、スポーツ協会と連携し、協同で「バレーボール教室」の開催に至ったことは評価に値する。教室の内容についてもレベルの高い技術とわかりやすい説明で参加者にとっては有意義なものになったものと考えている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 「現状のまま継続」しつつ、これまで体育館を利用することが少なかった障がい者や関係団体にも使用してもらえるよう働きかけを行っていく。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名： —			指標の求め方：活動指標の設定が困難であることから設定しない										
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名： —			指標の求め方：成果指標の設定が困難であることから設定しない										
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/)	計画値													
			実績値													
	指標	成果指標 1 (単位/)	計画値													
			実績値													
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されていない										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				普通である										
			自己分析：	自己分析：	自己分析： 予算計上がなく 未実施である。 今後、建設部と の協議を進めな がら必要に応じ 予算要求を行 い、整備を進め ていくこととな る。	判断理由： 事業先送りとし ており、評価が 難しいことから 「普通である」 とした。	自己分析： 令和7年度以降 の施設の管理運 営を見通すた め、早急に改修 を行う必要があ り、令和7年度 に関係予算を計 上したところ である。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
		今後の方向性				手段の見直し										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 令和7年度にB&Gスポーツ交流交歓会【水上の部】を開催予定であり、乗り場の整備を行う予定。				R8：				R10：					